

2020年2月6日

九州から日本を動かす! Move Japan forward from 九州! (95)

トップはビジョンをしっかりと持ち、それを印刷物などで具体的に文字化して発表し、部下や関係者に徹底して伝えることが大事だと、松下幸之助氏は語っています。トップにとってそれがもっとも重要な仕事で、それをしなければ社員はその企業がどちらに向かっているのか、何を大事にしているのか、何が優先されているのかを知ることができないということです。私もそのメッセージを読んで経営方針を書き、以前は発信し続けていました。

同時に現場の重要性も感じていて、日々、大いに現場を歩き回っています。現場見学といった意味合いもありますが、頑張ってくれているスタッフへのお礼というか、激励、勇気づけも大事だと思っています。英語で Walking around and tapping on the shoulders というマネジメントの手法は広く活用されていると聞いています。

トップのやりがいと責任は実に大きいです。会社を変えることはもとより、首長であれば地元の市や県を変える力があるのです。今、日本では、危機感無きジリ貧状態が続きながらも泰平感が根付き、海外に出ていこうというエネルギーが不足しています。九州は伸びゆくアジアに隣接しており、日本経済全体を引っ張っていけるようなビジネスの実績を上げていくことの出来る可能性が高い地域です。次世代が喜んでくれるような、将来に評価される動きや、実績を出していくことへの責任を感じています。

米中間の緊張継続の中、日中の関係性は非常に友好的になってきていると、貿易拡大の中で私は感じています。その中で農林水産物の輸出を促進することで実績に結び付けたいと思っています。温暖化の影響で野菜の収穫量が増えていることによる値下がり。生産者にとっては大きなストレスです。しかしお隣の中国は日本の食品を高く評価し、購買力もあります。九州から農水産物の輸出を拡大し、習近平国家主席の来日前に、さらに親善関係が深まる事例の一つとしたいです。また一次産業の収入を増やすことで、ローカルで仕事をするこの将来性に関する魅力増に役立つ動きをしていきたいと思っています。

中国政府内での日本との貿易拡大の動きは強く、貿易対象品目についても、牛肉や野菜へ広がる可能性も出てきています。検疫に時間がかかり過ぎるためにコストが高くなり、食品の鮮度も落ちてしまうという課題についても、解決への動きがあるのではないかと私は期待しています。美味しい食物を作る力を十分に持っている日本の一次産業は、煮詰まっていく国内市場から視野を広げ、伸びゆく、そして日本製品全般を高く評価しているアジアへの販売力をつけることが重要ですし、そのための迅速な行動が求められると思います。

麻生 泰